



行く秋を惜しむかのように、あちこちで皇帝ダリアが大輪の花を咲かせ、揺れている。背丈が3、4mほどと高く、花の装いが堂々としていことから皇帝ダリアと呼ばれる。「木立ダリア」の別名もあるほど遠くからも目立つ。鮮やかなピンク、緑の葉、青い空の3色のコントラストが素晴らしい。まさにダリアの王様である。

しかし、この皇帝ダリア、竹のような幹だが、風には弱い。いったん霜に出会うと無残にもたちまちしぼんで枯れてしまうが、地下茎は残り



2015. 11. 29

「気象コンパス」主宰

古川 武彦

### 皇帝ダリア

翌年に芽を出す。枯れないうちに幹を取り、挿し木で増やせる。メキシコが原産地といわれ、もともと暖地の花。

このところずっと、例年より暖かい日が続き、雨の日も多かった。気象庁は毎週木曜日に1カ月予報を発表しており、気温、降水量、日照時間を、それぞれ平年に比べて①低い(少ない)②並③高い(多い)の3階級の確率で表示している。

関東地方の月平均気温(11月28日~12月27日)の予想を見ると、平年より高くなる確率は80%(並みが40%、高いが40%の合計)となっており、この暖かさはまだ続く見込みだ。また、降水量も高くなる確率は80%となっている。

皇帝ダリアもしばらくは威風を保つかもされない。

(元気象庁予報課長、理学博士、鹿嶋市在住)



ミカンと言えば「温州ミカン」が代表であるが、西日本や東海地方の温暖な地域が適地で、栽培の北限は茨城県あたりだといわれている。筑波山の中腹では昔からミカンの栽培が盛んである。

その秘密は二つあり、気温が上空ほど暖かい「逆転層」の形成と、山の斜面の重い空気は「斜面流」として流下することである。両者の効果は「斜面温暖帯」を形成する。気温の逆転とは、晴れた夜間などに「放射冷却」によって地面の熱が高空に逃げるので冷えるため、通常とは反



2015. 12. 6

「気象コンパス」主宰

古川 武彦

### 筑波山のミカン

対に上の方が暖くなる現象である。

「逆転層」内では下ほど空気が重いので大気は安定し、冷えた朝などに煙が低く棚引くのがよく見られるが、逆転層を突き抜けることは難しい。また地表から放出された汚染物質なども逆転層に閉じ込められやすい。

筑波山の中腹一帯は、幸運にもちょうどこの逆転層の上部に覆われやすいので麓より暖かい訳だ。一方、中腹の斜面の空気は放射で冷却されるが、「斜面流」として麓に下ってしまう。

筑波大学の観測によれば、冬季、麓の桜川の河川敷では氷点下なのに、ミカンが栽培されている中腹200~300m付近では4度程度との報告がある。

筑波山のミカンは、筑波山の地形と自然の摂理を利用した先人の知恵である。

(元気象庁予報課長、理学博士、鹿嶋市在住)